

hand in hand

秋田県立大曲養護学校
地域支援部報 No.2
平成27年7月22日発行

夏休みが始まります。先生方にとっては、教材研究をしたり、研修に参加したりと2学期からの授業のために準備時間を確保できる貴重な期間になることと思います。本部報に「せんもんかんの部屋」ができました。特別支援教育について情報発信をしますので、ぜひ御一読ください。

特別支援教育研修会のお知らせ

日時：平成27年8月4日（火） 14:00～16:30

会場：秋田県立農業科学館 多目的ホール

講師：名古屋恒彦氏（岩手大学教育学部教授 附属特別支援学校校長）

演題：「子ども主体の学校生活」～やりがいと手応えのある生活を～

※先日配布しました案内にて申し込みください。

（電話での申し込みもお受けします。）

地域支援文庫「hand in hand books」

地域支援文庫の図書については、ホームページに地域支援文庫「hand in hand books 図書一覧」を載せてありますので、御覧になり、ぜひ御活用ください。普段の指導で活用しやすく、読みやすい本を選びましたので、地域の幼稚園、保育所、小・中学校・高等学校等たくさんの方々にご利用していただきたいと思っています。

☆図書の紹介☆



「発達の気がかりな子どものほめ方しかり方」

～応用行動分析学で学ぶ子育てのコツ～

ほめ方しかり方 間違っていますか？

自閉症、アスペルガー、ADHDなどがあると診断された子どもたちは、失敗や問題行動もあり、大人からしかられがちです。でも、本当に問題を解決し、その子たちを伸ばしてあげるには上手にほめて、しかることが大切。この本では、保護者や先生のために「応用行動分析学」を利用した子どものほめ方、しかり方を紹介しています。

[主な目次]

- 第1章 応用行動分析学への入門
- 第2章 上手なほめ方しかり方Q&A
- 第3章 家庭での上手なほめ方Q&A
- 第4章 家庭での上手なしかり方Q&A
- 第5章 教室での上手なほめ方しかり方Q&A
- 第6章 応用行動分析学の諸原理



☆「上手なほめ方しかり方」の事例を挙げ、その原理もやさしく説明してあります。

本の借り方・返し方

- 貸出期間は、2週間以内とします。
- 1回の貸出は、2冊までです。
- 本は、大曲養護学校の職員室にあります。
随時、閲覧することができます。来校前に電話でお知らせください。
- 内容などについては、地域支援部までお問い合わせください。

せんもんかんの部屋

～ KAMACHAN'S ROOM ～

No. 1

秋田県立大曲養護学校
鎌田 誠

「ことば」について考える ～その1～

5歳児健康相談、就学前の相談会、就学後の教育相談など、親御さんと教育相談をする機会がありますが、そのときによく話題になるのが「ことば」のことです。「うまくことばが話せなくて…」「ことばが幼くて…」「こちらの言うことを分かってくれなくて…」などなど主訴は様々ですが、相談した親御さんの多くはお子さんの「ことば」のことを心配しています。就学前のお子さんの相談では「言っていることが分からない」「赤ちゃんことばがぬけない」などのように、主に「話し方」に問題があるケースが多くあります。一方、就学後の場合は「指示を理解できない」「その場の状況に合わないことばを言う」などのように、「聞き方」「つかい方」の問題が主になってきます。

今回は、子どもの「ことば」のことについて、主に「話し方」にどのような問題があるのかを考えてみたいと思います。

「話し方」がどのようになっているのか…

- 特定の音が置き換わっている。(置換)
(かめ → タめ さる → たる さる → 八る すみれ → チュみれ など)
- イ列音、エ列音の一部が歪んでいる。(歪み)
(きりん → チりん きゅうり → チゅうり けいと → チェいと など)
- 特定の音の子音が省略されている。(省略)
(さい → アイ あいす → あいう たこ → アこ こねこ → オねオ など)
- 話を始めるときにどもってしまう。(どもり)
(とまとが… → ト・ト・とまとが… とまとが… → ト～～まとが… など)
- 幼い話し方をする。
(「犬」の絵を見て“わんわん” 「食べ物」の絵を見て“まんま” など)
- 「あ～」「う～」などと声は出せるが言葉は話せない。

どうすればいいのか…

- 置換、歪み、省略について
 - ・例えば、食事をするときによくかんで食べることができる、というように、や舌の動きに問題がない場合は、や舌の動かし方を練習することで改善を図ることが可能です。ただし、「歪み」については時間を要しても改善が難しい場合もあります。就学後は、通級指導教室（「ことばの教室」）の利用も可能です。教室を設置している小学校にお問い合わせください。（幼児を対象とした「ことばの教室」を設置している自治体もあります。）
- どもりについて
 - ・自然にどもりがなくなったというケースもありますが、どもりを「なおす」ということは大変難しいことです。地元の保健師さんや「ことばの教室」などにご相談ください。
 - ・お子さんが「どもっても言いたいことを最後まで言う。」「みんなの前でもお話できる。」と思えるように支援し続けることが大切です。
- 言葉が話せなかったり幼い話し方になってしまう場合について
 - ・絵本の読み聞かせなどをしたり日常生活の中でよく見聞きするものについてその都度お話ししてあげたりするなどして「ことば」を育てていくことが望まれます。また、療育機関を活用し、お子さんの全体的な発達を促すことも有効です。

部報「hand in hand」は、大曲養護学校 HP からダウンロードできます。